

## 事務事業評価表（公共施設）

評価対象年度	平成 25 年度
1次評価日（主幹等）	26年3月31日
2次評価日（課長等）	26年3月31日

1 事業名	勤労会館管理事業			コード	31201	
2 担当部課	部等	経済部	課等	工業振興課	作成者	小口喜照
3 事業概要	目的体系	基本目標	魅力と活力にあふれる、にぎわいのあるまち			
		政策	勤労者対策の推進	施策	勤労者福祉の充実	
		予算科目	勤労会館管理費	業務委託	全部委託	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし	
		設置条例	岡谷市勤労開館設置条例			

## ●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
施設の概要（簡潔に）	働く市民等の福祉の増進と文化の向上に寄与することを目的とした施設		
目的	対象者	岡谷で働く市民、市内の事業所で働く方	
	意図	仕事と余暇を効果的に組み合わせワークライフバランスの向上を目指す。	

5 施設の管理運営状況			
指定管理者	（一財）諏訪湖勤労者福祉サービスセンター	25年度指定管理料	1,584,000 円
施設における通常業務	勤労者等の福祉の増進と文化の向上のため、施設の維持・管理及び使用に関する業務を行う。		
事業の実施内容	<p style="color: red;">(25年度に施設で行った運営事業・自主事業など)</p> 勤労者向けの講座実施はもちろん、企業の研修や、昼間の空き時間には高齢者や主婦などの団体にも貸し出しを行っている。		
前年度の課題への対応	会場の利用条件は公民館やテクノプラザおかやよりも柔軟なので、いっそうのPRして認知度を向上させる。		

6 施設の利用状況	*②・③はどちらかの欄に記入			
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 施設稼働率	43.2%	43.2%	43.2%	
年間開設日数（日）	345	345	345	345
1日の開設時間（時間）	12	12	12	12
年間利用可能時間（時間）	4,140	4,140	4,140	4,140
年間利用実績（時間）	1,789	1,789	1,789	
② 年間利用者数（人）	0	0	0	0
有料利用者数				
無料利用者数				
減免措置者数				
③ 年間利用件数（件）	907	927	959	900
有料利用件数	757	779	805	750
無料利用件数				
減免措置件数	150	148	154	150
④ 1日あたり利用者数、件数	2.6	2.7	2.8	2.6
⑤ 施設利用状況の説明				

7 コストの推移	*この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）				[単位：円]
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)	
① 直接事業費	1,583,428	1,583,271	1,583,115	1,580,000	
経常経費	1,583,428	1,583,271	1,583,115	1,580,000	
臨時的経費	0	0	0	0	
*臨時的経費の説明					

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
② 人件費	800,000	800,000	800,000	800,000
正規職員の人数(人)	0.10	0.10	0.10	0.10
③ 合計コスト(①+②)	2,383,428	2,383,271	2,383,115	2,380,000
前年度比		100.0%	100.0%	99.9%
財源内訳				
一般財源	1,833,628	1,773,821	1,739,825	1,780,000
特定財源	549,800	609,450	643,290	600,000
*特定財源の説明	施設使用料、実費等徴収金			
④ 施設使用料年間収入額	549,800	534,900	473,200	600,000
⑤ 年間減免措置額	56,400	60,500	77,700	0
⑥ 受益者負担割合	38.3%	37.6%	34.8%	38.0%
⑦ 活動一単位あたりコスト	2,628	2,571	2,485	
前年度比		97.8%	96.7%	
⑧ コストに関する補足説明				

### ●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価	*妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。	妥当性	標準
評価項目		はい	いいえ
①	現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
②	民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。		0
③	民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。		0
④	国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤	この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価	*有効性=施設の利用状況(項目6/住民の満足度)は向上しているか。	有効性	標準
評価項目		はい	いいえ
①	この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
②	社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。	1	
③	この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④	施設の利用者が増加した。 1日あたり利用者数、件数 前年度比 103.5%	1	
⑤	施設使用料収入が増加した。 施設使用料年間収入額 前年度比 88.5%		0

### ●改善の内容(ACTION)

10 具体的な課題と改善	
課題	(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること) 若者の施設離れもあり勤労者という条件だけでは利用者は減少する一方である。
改善方法	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 既に取り組んでいるが、高齢者は主婦の活動に対しても貸し付けるなど柔軟に運用している。
改善開始時期	平成26年4月

### ●次年度の計画(PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	---	---

13 大規模修繕の予定			
内容	予定事業費	円	予定時期